

1 久留米市スポーツ振興基本計画（旧計画）の検証

（1） 久留米市スポーツ振興基本計画の概要

【基本理念】

活力あふれる市民スポーツの振興と豊かなスポーツライフの創造・地域づくり

【目指す都市像】

- スポーツによる生きがいと輝きが共有できる都市
- 健康に満ちた市民の笑顔があふれる都市
- 共汗・共育・交流のスポーツクラブ文化が薫る都市

【基本方針・基本的視点】

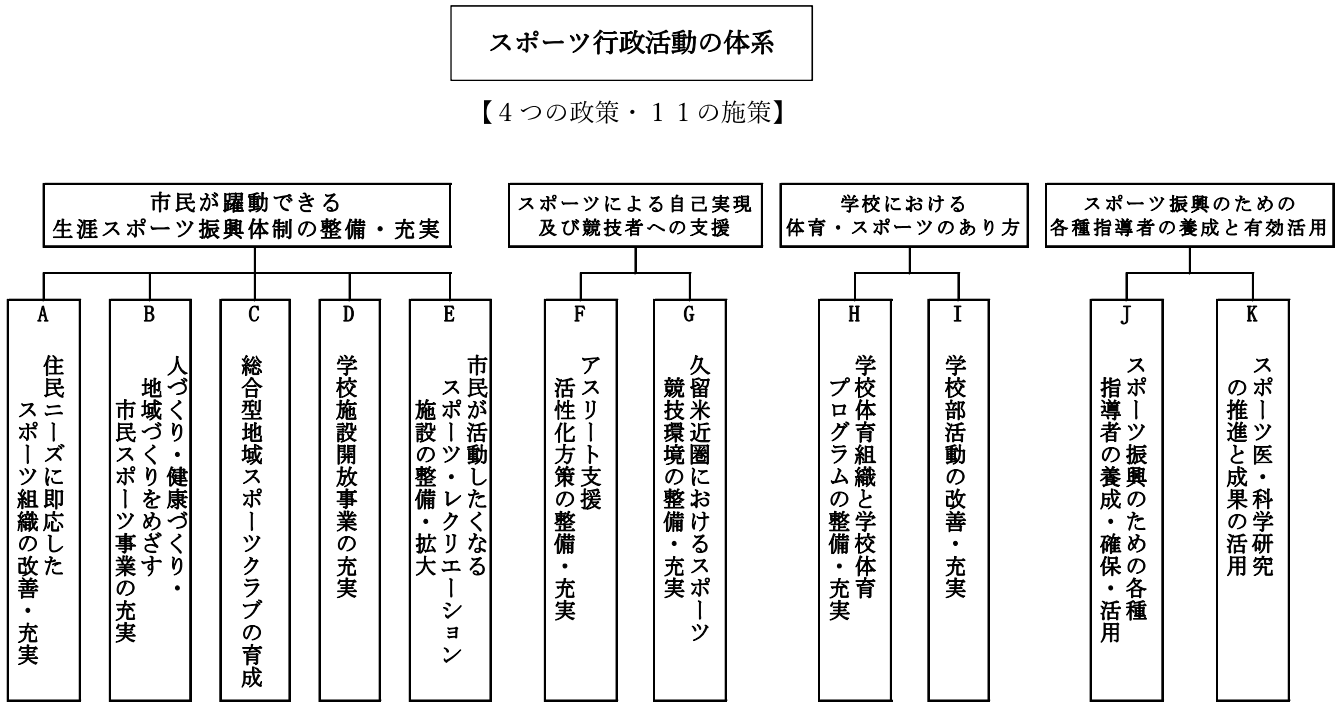
基本理念に基づき次の6つの基本方針・基本的視点を根幹に据えて、諸施策の展開と諸事業の実施に取り組みました。

- 1) 中核都市にふさわしいスポーツ事業・コンベンション・施設整備・組織づくりの推進
- 2) 市民の多様なスポーツニーズ・健康づくりニーズに対応できる地域スポーツクラブづくりの推進
- 3) 気軽に親しめるスポーツ環境の整備・充実と既存施設の有効活用の促進
- 4) 児童生徒のスポーツライフの充実と運動に親しむ資質・能力の形成
- 5) 市民のスポーツ活動・健康づくりを支える指導者・ボランティアの養成
- 6) スポーツ情報ネットワークの整備と充実

【政策の柱と成果指標】

旧計画の進捗状況を計るため、計画を構成する4つの政策ごとに成果指標と目標を設定し、各種事業に取り組みました。

◆政策の柱



◆成果指標

政策名	成果指標	目標
生涯スポーツの振興	週1回以上の運動・スポーツ実施率	50%
自己実現・競技者支援	全国大会等優勝者・団体数	計15
学校におけるスポーツ	体力・運動能力調査(小5・中2)	全国平均以上
指導者の育成	講習会・研修会受講者数	延べ1,100人

(2) 政策ごとの検証及び総括

計画を構成する政策毎に旧計画の成果と課題を次のとおり総括します。

【政策1】市民が躍動できる生涯スポーツ振興体制の整備・充実

事業計画	主な取り組みと成果
総合的・効果的に市民スポーツを推進するため、市体育協会や各競技団体、大学等との連携を図るとともに、総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブという。）やスポーツ推進委員との協働により事業を推進する。	○市体育協会等と情報共有・連携し、スポーツ関連情報の発信を強化しました。 ○スポーツ推進委員等と連携し、各団体に向けた研修会を行うことで地域スポーツの活性化を図りました。
ライフステージに応じてスポーツ活動に親しめるよう様々な事業を実施する。 また、総合型クラブの創設やその活動を協働の視点から支援する。	○各種スポーツ教室等の実施により、幅広い年代の市民が気軽にスポーツに取り組む契機となりました。 ○総合型クラブ支援や連携で、地域スポーツの活性化を図りました。
市民が身近な場所でスポーツに親しめるよう、また、学校施設の有効活用という観点から、学校施設を市民に開放し、市民の主体的な活動を促進する。	○小中学校での学校施設開放事業実施により、子どもから大人までがスポーツに取り組むやすい環境づくりを促進しました。
市民のスポーツ活動のニーズや地域の状況を踏まえ、計画的に施設の整備に取り組むとともに、施設の利便性向上を図る。	○「久留米アリーナ」や「東部運動公園」等を整備し、多くの市民がスポーツに取り組むことのできる施設環境が充実しました。

【目標の達成状況】

【成果指標】 週1回以上の運動・スポーツ実施率	H23年度	目標	実績
		H31年度	H31年度
	36.1%	50%	43.9%

目標達成に向けた各種取り組みにより、市民の運動習慣としてウォーキングを行う市民の割合が平成23年から15.5ポイント増加するなど、「週1回以上の運動・スポーツ実施率」は平成23年調査時点よりも約8ポイント上昇したが、目標は達成できなかった。

◆ 今後の課題 ◆

①市民が気軽にスポーツ・健康づくりに取り組める環境の整備

年代や性別などに関わらず、多くの市民が健康の保持増進や体力向上など、生きがいを持ってスポーツ・健康づくりを行えるよう、引き続き関係団体・機関等との協働・連携しながら各種事業に取り組み、運動・スポーツ実施率のさらなる向上を図る必要があります。

②スポーツ施設の機能確保

市民スポーツのニーズや地域の実情を踏まえ、施設の適切な維持管理を行うとともに、計画的な修繕が必要です。

【政策2】スポーツによる自己実現及び競技者への支援

事業計画	主な取り組みと成果
<p>中高生を中心としたアスリートを支援し、競技スポーツを活性化するため、中・高体連及び市体育協会や競技団体等との連携を強化する。</p>	<p>○中高生のトップアスリートに対し活動費をはじめ様々な支援を行うことで、競技環境の向上を図りました。</p> <p>○大会での成績優秀者に対し各種表彰や積極的なPR活動を行うことで、選手を支援しました。</p>
<p>九州・全国レベルのスポーツ大会の開催・誘致を行う。</p> <p>また、久留米圏域にあるプロスポーツ資源を活かした事業を実施する。</p>	<p>○久留米アリーナ等の整備により、大規模大会を誘致できるようになり、競技レベルの向上及び地域スポーツの活性化を図りました。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックの事前キャンプにケニア共和国・カザフスタン共和国を誘致しました。</p> <p>○福岡県内のプロチームによるスポーツ教室を開催し、トップレベルのスポーツを体験しました。</p>

【目標の達成状況】

【成果指標】	H23 年度	目標	実績
		H31 年度	H30 年度
全国大会等優勝者・団体数	計 12	計 15	計 26

全国大会等優勝者の状況としては、柔道、自転車、カヌー、弓道等に加え、東京2020オリンピック競技大会の新競技種目となる空手やボルダリングなどにおいても、新たな全国大会優勝者が出ている状況です。

◆ 今後の課題 ◆

① トップアスリートへの支援

久留米市にゆかりのある中高生を対象に「トップアスリート支援事業」を実施し、試合や練習などに要する経費について支援していますが、今後も継続的に競技に専念できる環境を整備するための支援策が必要です。

② 大規模大会やプロスポーツの試合などの誘致による地域活性化

久留米アリーナの整備による効果を最大限に発揮させるため、大規模大会等の誘致による地域活性化を図る必要があります。

③ ケニア共和国・カザフスタン共和国の事前キャンプの円滑な実施と成果の活用

東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて、両国の事前キャンプを円滑に実施し、その成果をレガシーとして、最大限に活用する必要があります。

【政策3】学校における体育・スポーツのあり方

事業計画	主な取り組みと成果
<p>体育授業の充実や児童・生徒の運動能力向上のため、外部指導者等を活用したスポーツ教室の開催など、各種施策に取り組む。</p>	<p>○全小中学校で、体力向上プランを作成し学校全体で取り組む「1校1取組運動」を実践することで、子どもたちの運動能力及び体力の向上を図りました。</p> <p>○各中学校に武道場を整備し、計画的に教員への研修を実施したことで中学校武道必修化に対応しました。</p>
<p>学校部活動の活性化や部員の増加を図るため、指導者の派遣や学校間の交流など、魅力向上に取り組む。</p>	<p>○外部指導者に対する保険加入などにより、活動環境の充実・改善を図ることで、部活動の活性化に取り組みました。</p>

【目標の達成状況】

【成果指標】 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 (小5・中2)	H23年度	目標	実績
		H31年度	H30年度
	全国平均以下	全国平均以上	全国平均以上

成果指標である全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)では、平成23年度に全国平均以下でしたが、全小中学校において、課題克服のための「1校1取組運動」を含む体力向上プランに基づく計画的な取組を進めたこと等により、目標を達成することができました。

◆ 今後の課題 ◆

①児童生徒の体力・運動能力の向上

子どもの体力は30年前と比較すると依然として低い状態が続いています。本市では体力・運動能力調査において、平成30年度の結果は全国平均と比較すると総じて上回ってはいるものの、今後も引き続き体力・運動能力の向上に向けた取り組みが必要です。

②持続可能な部活動の推進

部活動は、体力向上はもちろん、生徒同士や教師との人間関係の構築など生徒の多様な学びの場としてその教育的意義は大きいものがあります。生徒にとって有意義かつ安全安心な部活動の実施、教職員の負担軽減及び保護者の理解促進を図り、部活動の活性化に取り組む必要があります。

【政策4】スポーツ振興のための各種指導者の養成と有効活用

事業計画	主な取り組みと成果
「スポーツを支える（育てる）人」の重要な要素の一つであるスポーツ指導者について、地域住民や競技団体等のニーズを踏まえつつ、必要な人材の養成を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ推進委員に対し各種研修会を行なうことで、地域のスポーツリーダーを育成しました。 ○関係団体等と連携し講習会などを実施することで、指導者の資質向上を図りました。
生涯スポーツの推進や、トップアスリートの競技力向上のため、大学等と連携したスポーツ医科学研究の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○幼少期から運動スポーツに慣れ親しみが持てるよう保育園・幼稚園の職員向けの講習会を開催するなど、生涯スポーツの資質向上を図りました。 ○大学と連携し、指導者向けのコンディショニングづくり等の講座を開催し、トップアスリート支援を図りました。

【目標の達成状況】

【成果指標】	H23 年度	目標	実績
		H31 年度	H30 年度
講習会・研修会受講者数	延べ 956 人 (H20～23)	延べ 1,100 人	延べ 1,326 人 (H27～30)

スポーツ推進員への指導者養成講習会などを行うことで、スポーツ知識・指導技術の向上につなげるなど、着実にスポーツ指導者の資質向上に努めました。

◆ 今後の課題 ◆

①効果的な指導者講習会の実施

各種講習会の受講者数は、テーマや内容により大きく変動があるため、指導者の資質向上に役立つ魅力的なテーマ設定や内容の充実を図ります。

また、講義内容等を十分に活用する仕組みが確立されていない面も見受けられるため、その仕組みづくりが必要です。

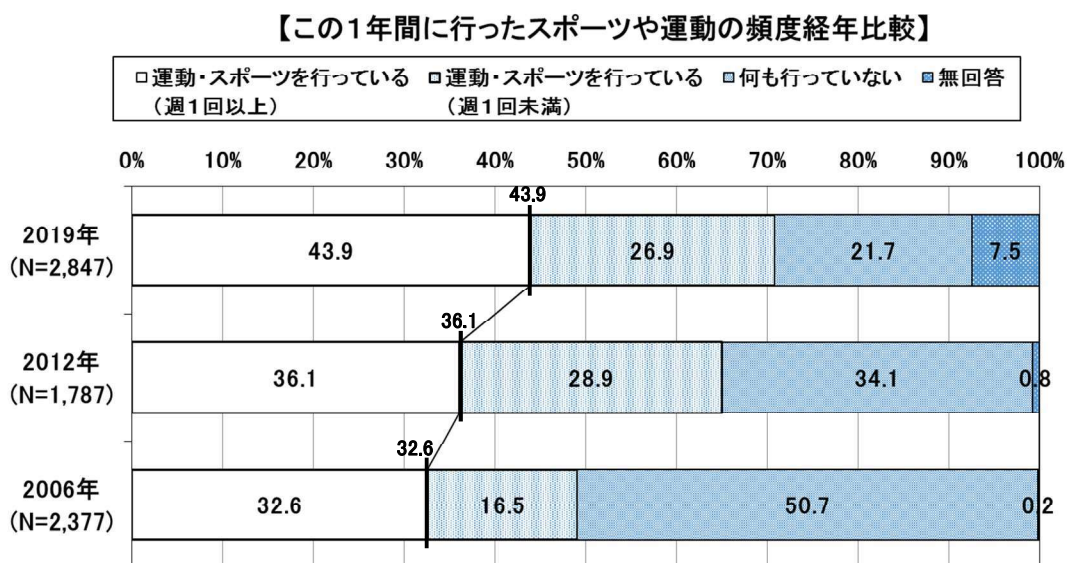
②スポーツ医学を活用した競技者への支援

大学の専門的な知識を活用した講座の開催で指導者及び選手への支援を行っていますが、今後も他の様々な支援についての取り組みも必要です。

2 市民意識調査から見える現状と今後の方向性

2019年に市が実施した「市民意識調査」及び「市政アンケートモニター・くるモニ」の結果から、本市における市民のスポーツに関する意識や実態の把握を行いました。

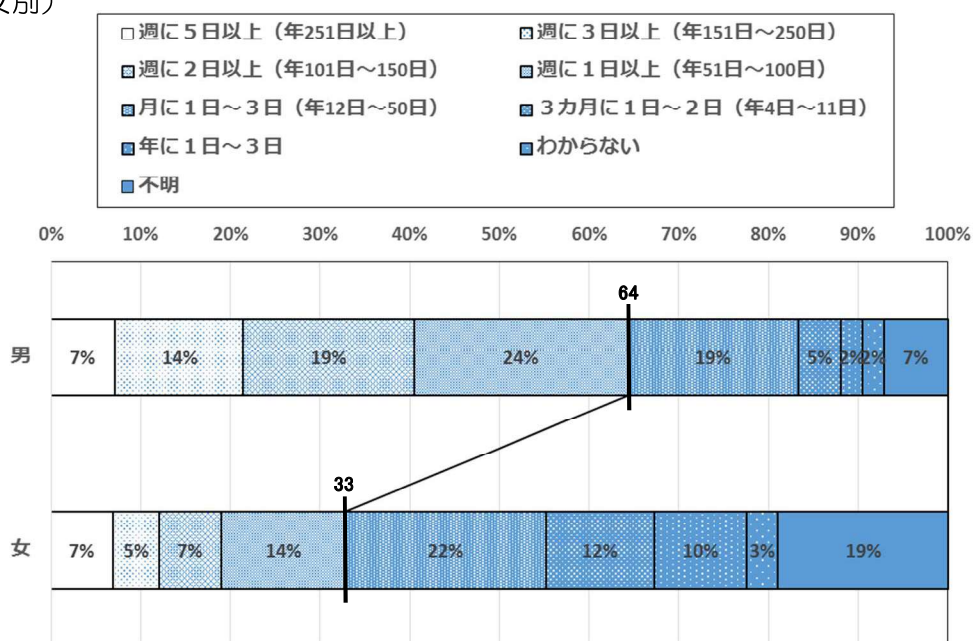
(1) この1年に行ったスポーツや運動の頻度



この1年に行ったスポーツや運動の頻度が「週に1回以上」と回答した人は43.9%となり、これは2006年、2012年調査に比べ徐々に高くなっています。

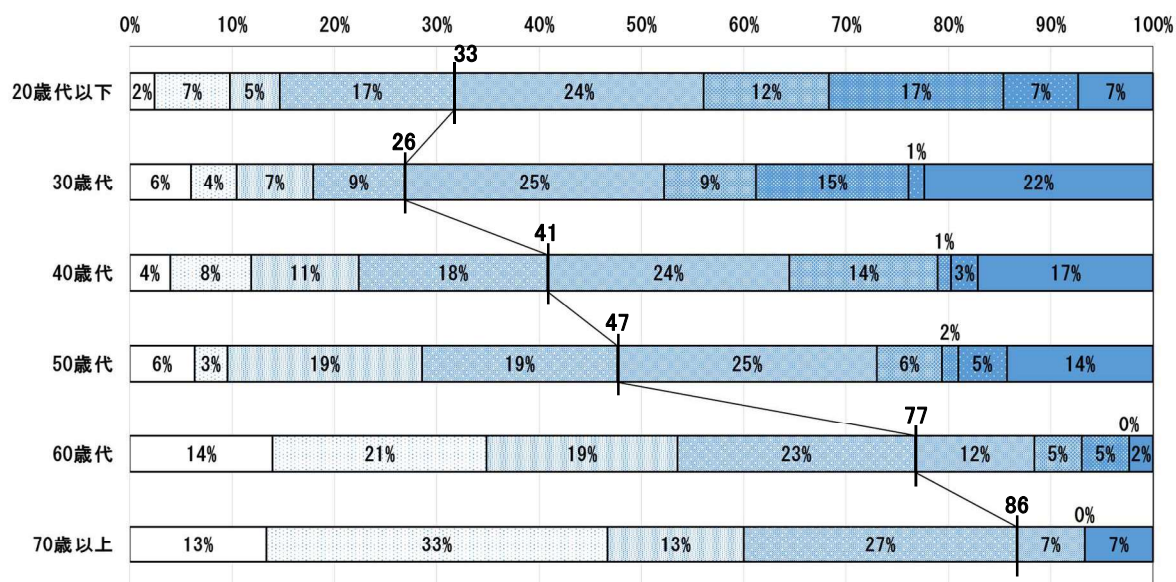
なお、国の調査(2019年)では、同実施率は55.1%です。

(男女別)



(年齢別)

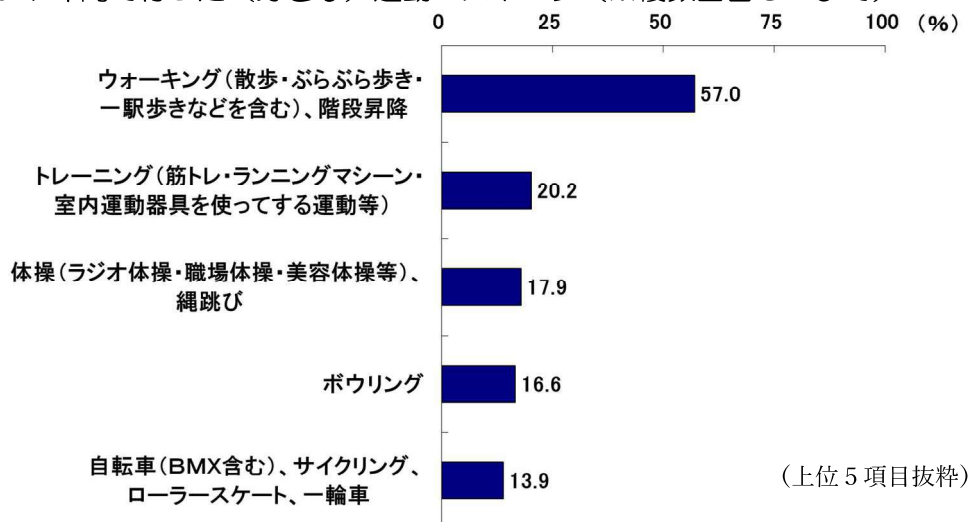
□週に5日以上(年251日以上)	□週に3日以上(年151日~250日)	□週に2日以上(年101日~150日)
□週に1日以上(年51日~100日)	□月に1日~3日(年12日~50日)	□3カ月に1日~2日(年4日~11日)
■年に1日~3日	■わからない	■不明



男女別の週1回以上のスポーツ・運動実施率は男性64%、女性33%であり、男女差が大きい状況にあります。国の調査では男性57.3%、女性53.4%であり、若干男性の比率が高くなっています。

また、年齢別には、30歳代が一番低く、以降年齢が上がるにつれ、スポーツ・運動実施率が高くなっており、国の調査では、20歳代から40歳代に向け低くなり、40代を底に高年代ほど高くなっています。

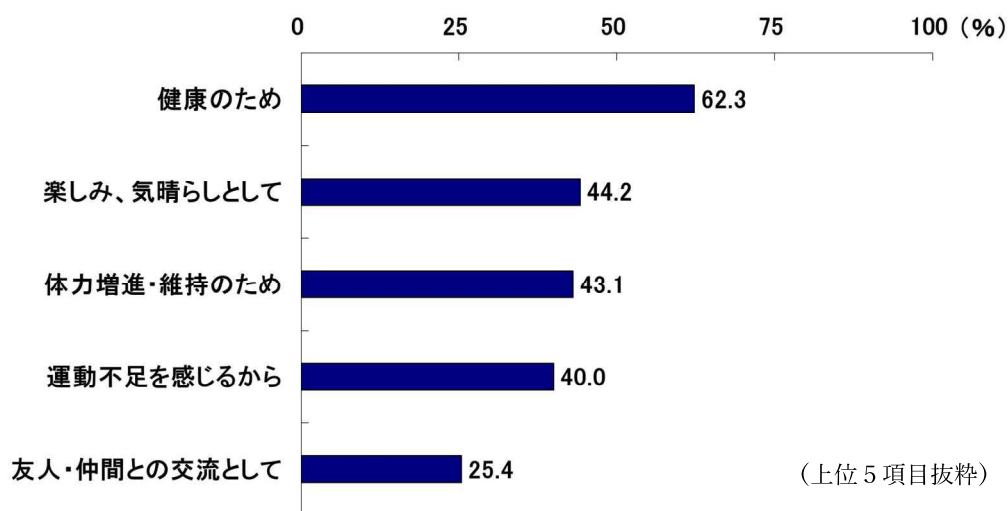
(2) この1年間で行った(好きな)運動・スポーツ(※複数回答3つまで)



この1年間に行ったスポーツや運動の上位3項目をみると、「ウォーキング、散歩」「トレーニング(筋トレ、ランニングマシン等)」「体操(ラジオ体操、職場体操)」など、身近な場所で手軽に行える種目が多くなっています。

国の調査では、「ウォーキング」(62.1%)、「階段昇降」(16.0%)、「トレーニング」(15.4%)「体操」(15.4%)となっています。

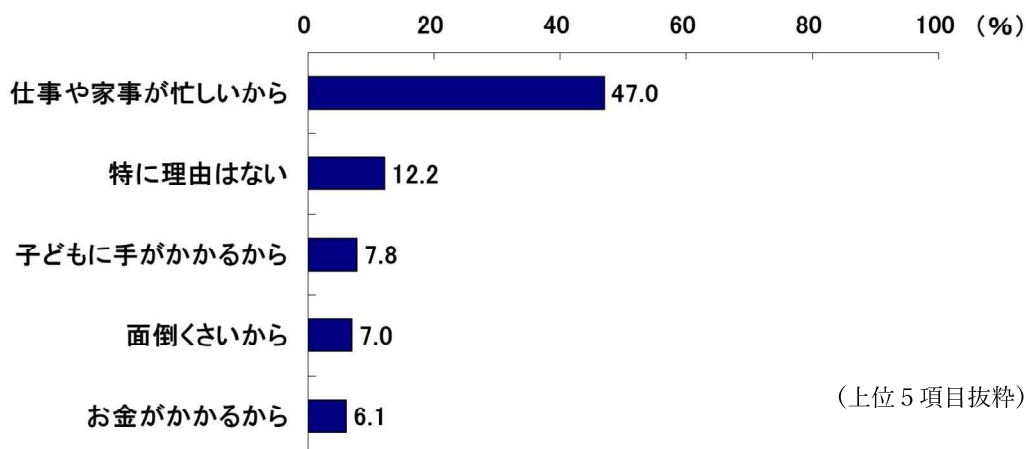
(3) この1年間運動・スポーツを行った理由(※複数回答)



この1年間運動・スポーツを行った理由についてたずねたところ、「健康のため」(62.3%)が一番多く、以下、「楽しみ、気晴らしとして」(44.2%)「体力増進・維持のため」(43.1%)「運動不足を感じるから」(40.0%)が多くなっています。

国の調査では、「健康のため」(77.9%)が一番多く、以下「体力増進・維持のため」(58.3%)、「運動不足を感じるから」(52.2%)が多くなっています。

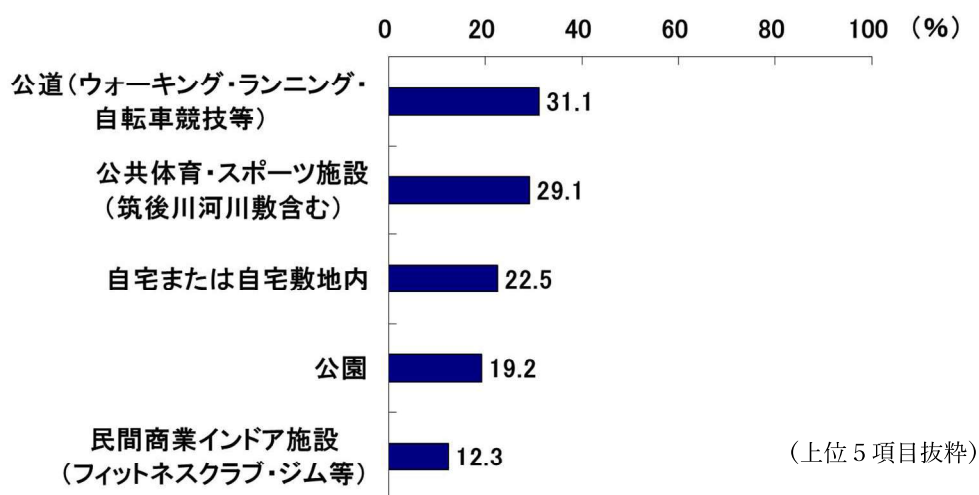
(4) 週に1日以上運動・スポーツをできなかった最も大きな理由



この1年間で週に1日以上運動・スポーツをできなかった最も大きな理由についてたずねたところ、「仕事や家事が忙しいから」(47.0%)が特出して多く、以下、「特に理由はない」(12.2%)「子どもに手がかかるから」(7.8%)「面倒くさいから」(7.0%)が多くなっています。

国の調査では、「仕事や家事が忙しいから」(49.0%)、「面倒くさいから」(43.5%)、「お金の余裕がないから」(22.0%)、が多くなっています。

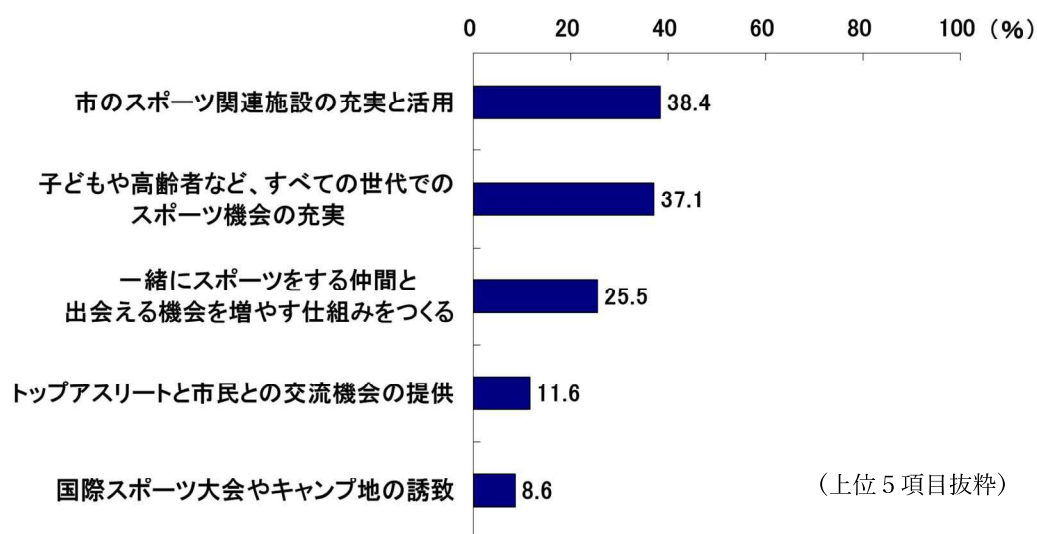
(5) この1年間に運動・スポーツをどこで行ったか(※複数回答)



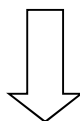
この1年間で運動・スポーツをどこで行ったかについてたずねたところ、「公道(ウォーキング・ランニング・自転車競技等)」(31.1%)、「公共体育・スポーツ(筑後川河川敷を含む)」(29.1%)、「自宅または自宅敷地内」(22.5%)、「公園」(19.2%)が多くなっています。

国の調査では、「道路」(49.2%)、次いで「自宅または自宅敷地内」(26.5%)、「公園」(23.5%)、が「公共体育・スポーツ施設」(19.6%)の順となっています。

(6) 今よりもっとスポーツに親しむために市に力を入れてほしいこと（※複数回答）



今よりもっとスポーツに親しむために市に力を入れてほしいことについてたずねたところ、「市のスポーツ関連施設の充実と活用」(38.4%)、「子どもや高齢者など、全ての世代でのスポーツ機会の充実」(37.1%)、「一緒にスポーツをする仲間と出会える機会を増やす仕組みをつくる」(25.5%)、が多くなっています。



【施策の方向性】

アンケートの結果を踏まえ、多くの市民が健康の保持増進や体力向上など、生きがいを持ってスポーツ・健康づくりを行えるよう、関係団体・機関等との協働・連携を図りながら各種事業に取り組みます。

- ①男女別では女性、世代別では仕事や家事、子育て等で忙しい50歳代以下の運動・スポーツ実施率の向上を目指す事業を進めます。
- ②一人でも、また少しの時間でも手軽に行えるスポーツ環境づくりなど、スポーツをより身近にする事業を進めます。
- ③体力の維持向上や楽しみ・気晴らしのため、また友人や仲間との交流など、それぞれの目的に応じた事業を進めます。
- ④すべての世代でのスポーツ機会の充実を図るため、スポーツ関連施設を活用し、初心者教室の開催や各種イベント等を実施します。
- ⑤スポーツ関連施設やイベント等の情報を積極的に提供することで、市民の利用や参加促進を図ります。

3 スポーツ関係団体からの意見集約

スポーツの関係団体に対し、久留米市の課題等についてのご意見を集約し、令和2年度からの本計画策定のための情報収集として行いました。

【意見集約の対象団体】

- ①（公財）久留米市体育協会 ②久留米市スポーツ推進委員連絡協議会
 ③久留米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 ④各指定管理者
 ⑤（一社）福岡県障がい者スポーツ協会

分類	I 市のスポーツ推進を図るうえでの課題についての意見	II 市が今後強化すべきスポーツ施策についての意見
する	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちが遊びやスポーツに触れる機会が少ない。 ○仕事や家事等で一番忙しい世代（20～50代）の運動実施率が低い。 ○障害者と健常者が、一緒にスポーツをする機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加しやすい初心者向けスポーツ教室の実施。 ○若い世代の運動機会の増進。 （親子でのスポーツ教室の開催など） ○高齢者へのスポーツ機会の提供。 ○障害者スポーツに対する啓発。 ○障害者がスポーツや運動に関われる環境整備。
みる	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模大会やイベント、スポーツ施設等の市民へのPR不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ○プロなどの高いレベルの試合観戦機会の提供。 ○広報の充実。（SNSを活用し、イベントや運動・スポーツ等の情報を紹介する）
ささえる	<ul style="list-style-type: none"> ○平日午前中の各スポーツ施設の利用が少ない。 ○土日はスポーツ大会が多く、一般の利用者の利用ができない。 ○施設の設備。（冷暖房がない施設は利用を避けられることがある。） ○施設管理者が障害者スポーツに関する知識・理解が不足。 ○競技団体や部活動指導者不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ○土日のスポーツ大会等での利用を調整し、市民がより利用しやすくする。 ○施設の修繕等の老朽化対応。 ○車いす用トイレ等バリアフリーの整備。 ○施設の管理者が障害者スポーツに関する知識を増やし理解を深める。 ○指導者向けトレーニング法等の講習会の開催。 ○スポーツボランティアが活躍できる仕組み作り。 ○障害者スポーツの指導員を増やす。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者スポーツの関係する部署間など行政間の連携が不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ○行政間等の各部署間での連携を強化。 ○東京オリ・パラを契機としたスポーツの推進。